

育て!! 光と風と土と水と

菊陽ぽっぽ保育園

働くパパ・ママと、地域の子育てに温かなエールを

～「たっぷり遊んで、食べて、眠る」
毎日が、未来へ続く“育ちの根っこ”を育みます～



菊陽病院のすぐ隣に、まるで“実家”のような温かな保育園があることをご存知ですか？
それが、私たち菊陽ぽっぽ保育園です。

ここは、病院で働くパパ・ママを力強く支え、地域の子育てにもそっと寄り添う場所。
「たっぷり遊んで、食べて、眠る」という、子どもにとって一番大切な時間を何よりも大切にしています。その中で育まれる、健やかな心と体の“根っこ”。そんな「ぽっぽ」の日常と、わたしたちの想いをご紹介します。

子育て中のあなたへ。こんな気持ち、ありませんか？

● 病院勤務の方

- ・「園のことは知ってるけど、実際の保育内容は？」
- ・「シフト勤務だけど、連携は大丈夫かな？」
- ・「仕事中に何かあった時、すぐ連絡もらえる？」
- ・「毎日忙しいけど、子どもの成長をしっかり見てほしい...」

● 地域の方

- ・「家の近くで、安心して預けられる園を探している」
- ・「子どもには、のびのびと自分らしく過ごしてほしい」
- ・「初めての集団生活、馴染めるかちょっと心配...」
- ・「子育ての悩みを相談できる場所があったら...」

ぽっぽ保育園は、そんな一人ひとりのお気持ちに、温かく寄り添います。

だから安心！ 菊陽ぽっぽ保育園 3つの“温かさ”



心と体の根っこを育む保育

たっぷりの遊びと豊かな自然体験を通して、健やかな成長の土台を、じっくり、しっかり築きます。



まるで“第二のおうち”

小規模ならではの家庭的な雰囲気。先生全員が、園の子どもたち全員を、愛情込めて見守ります。



頼れる連携とサポート

病院隣接ならではの安心感と、地域への温かな眼差し。子育ての不安も、気軽に話せる場所です。



- 看護師さんたちの熱意から始まった、私たちの物語 -

「働きながらも、安心して子どもを育てたい」そんな切実な願いを胸に、看護師さんたちが自分たちの手で立ち上げたのが、ぽっぽ保育園のはじまりでした（1981年設立）。子どもたちの笑顔と、保護者の安心のために、私たちが40年以上、変わらず大切にしてきた想いとは――。

たっぷり遊んで、未来へ続く“育ちの根っこ”を ～園長の想い～



今回の聞き手は、菊陽病院で働きながら、自身の子どもを日々菊陽ぽっぽ保育園に預けている職員の田原春です。「いつも本当にありがとうございます！」という感謝の気持ちと共に、保護者の一人として、そして病院スタッフとして、園長先生にぽっぽ保育園の魅力をたっぷり伺いました。

● プロローグ：ママたちの熱意が、この場所を作った

「育休もなく産休明けすぐに復帰が当たり前だった時代、休みの看護師が寮で交代で子を見ていたそうです」と川上園長。『それなら保育士さんを雇おう』と病院の許可を得て、看護師たちが自分たちの手で、安心できる場所、働きやすい環境を作ろうと自主的に立ち上がったのが、ぽっぽ保育園の始まりです。

「認可園に負けない質の高い保育を」という強い想いにもつながりました。設立から40年以上、“子どもと保護者のために”という温かい想いは、今も園に息づいています。

● ぽっぽ流保育の真髄：「遊び」が未来の土台になる



大切にしているのは「たっぷり遊んで、食べて、眠る」こと。



「一見ただ遊んでいるようでも、子どもは遊びを通して多くを学びます」と川上園長。「仲間と夢中で遊ぶ中で、『考える力』『やってみよう！』という意欲、友達と協力したり、時にはぶつかったりして育つ『社会性』、そして『できた！』という達成感から生まれる『自己肯定感』…。これら全てが、生きる上で大切な“育ちの根っこ”になるんです。

五感で自然を感じ、友だちと体験を共有する毎日が、健やかな心と体の土台を確実に育みます。

● 保護者の心にもそっと寄り添う、ホッとできる場所

定員40名の小さな園。「だから先生全員が、園の子ども全員の名前や顔、個性まで分かっています」という園長の言葉に温かい誇りが感じられました。「一人ひとりの変化に気づきやすく、『今日は元気ないな』『これができるようになったね』とその子に合った声かけができます」。温かい挨拶が響き、「保護者の方にもホッとできる場所でありたい。忙しい日々の中、悩みや不安を気軽に話せるように。立ち話で『楽になった』と言ってもらえると嬉しいですね」。保護者同士も自然と仲良くなれる雰囲気。「卒園して大きくなった子がふらっと顔を見せることも。まるで“実家”みたいだね」

● 病院 × 地域＝心強いサポート体制

病院隣接は大きな安心。「勤務中の連絡もスムーズ。お子さんの様子はお迎え時にしっかり伝えます。シフト勤務なども、できる限り配慮しますのでご相談ください」

地域の方にも心強い連携が。「発達で気になることがあれば、病院に併設の『菊陽地域生活支援センター相談支援事業所』と連携し、スムーズなサポートへ。これは当園ならではの強みです」

日々の安全・衛生管理も徹底。「毎月の避難訓練、職員研修、丁寧な掃除・消毒、手洗い、換気など基本を毎日確実に。感染症対策も状況に応じて行い、お子さんを安全にお預かりする努力は惜しみません」。地域との交流も大切に。「地域のイベントに参加したり、マジックショーに来てもらったりしています」

● 未来へ～地域みんなで、子どもたちの成長を支えたい～

園の未来について、「これからも保護者が安心して子育てできる“実家”であり続けたい。いずれは園に通わない親子も気軽に立ち寄れる『子育て広場』を開き、地域の子育てを応援できたら」と園長は語ります。

● 園長からのメッセージです

「子どもたちは、地域みんなの宝物です。『たっぷり遊んで、食べて、眠る』。この一番大切な時間を真ん中に、保護者の皆様、地域の皆様、そして私たち職員、みんなで手を取り合って、子どもたちの豊かな“育ちの根っこ”を、一緒に育んでいきましょう！」



菊陽ぽっぽ保育園の温かさを、感じに来ませんか？

見学、随時受付中です！

実際の園の雰囲気や、子どもたちの様子を見ていただくのが一番です。
入園に関するご質問・ご相談などお気軽にご連絡ください。

連絡先電話番号 **096-232-3297** （担当：川上）

名 称：菊陽ぽっぽ保育園（家庭的保育事業・地域型事業所内保育所）
住 所：熊本県菊池郡菊陽町大字原水 5587
アクセス：JR 三里木駅徒歩 10 分。菊陽病院 隣接
運営法人：社会医療法人芳和会（熊本市中央区神水 1 丁目 14-41 096-381-5887）

開園時間：平日 7:30～18:30[☀] ・土日祝 7:30～18:30

延長保育：平日 18:30～19:30
：延長料 30 分ごとに 100 円

短時間保育：平日 8:00～16:00 ・土日祝 8:00～16:00

休 園 日：年末年始 12/31～1/2

一時預かり：あり（地域向け・事前予約制[👤]・0歳6か月より可能）

スタッフ一同、心よりお待ちしております！



発見がいっぱい！ぽっぽの冒険

1. すごすぎ！往復 5km の山道もへっちゃら！？

「天気の良い日は、近くの公園はもちろん、ちょっと足を延ばして飯高山まで散歩に行きます。2歳以上になると往復 3km、3歳頃になると往復 5km の道のりを歩くんですよ！目的地で走り回るから、すごい運動量。色んな道を歩くことで、自然と足腰が鍛えられます。歩ききった後の、子どもたちの誇らしげな顔といったら！」

2. 先生もびっくり！子ども語録

「0歳の子の歯が生え始めたのを見て、お姉ちゃんの歯が抜けるのを知っている3歳の子が『すごーい！歯が抜けてる！』って（笑）。野菜嫌いの子に先生が『野菜を食べると病気をやっつけてくれるよ』と言ったら『それ、誰に言ってるの？』と真顔で返されたり。先生の結婚報告に『俺？』って立候補する子がいたり...毎日が発見と笑いでいっぱいです！」

3. 「いや！」の気持ち、ちゃんと受け止めます

「特に1～2歳児は『いや！』が口癖の時期。でも、頭ごなしに叱るのではなく、『そうか、今は嫌なんだね。分かった、待ってるね』と、まずは気持ちを受け止めます。ベテランの先生は、その子のタイミングを見計らって、そっと声をかける。すると、すんなり動いてくれることも多いんです。子どもを信じて待つこと、それが信頼関係の第一歩ですね。」

編集担当より

今回、園長先生に直接お話を伺う機会をいただき、ぽっぽ保育園の先生方が「たっぷり遊んで、食べて、眠る」という日々の営みの中に、どれほど深く子どもたちの「育ちの根っこ」を育む視点を持ち、一人ひとりに愛情を注いでくださっているのか、その温かさと真剣さを改めて肌で感じることができました。

毎日、仕事帰りに園の扉を開けると「おかえりなさい！」と迎えてくれる先生方の笑顔、そしてそこで生き生きと過ごす我が子の姿を見ると、ここは本当に心から安心できる“第二のおうち”なのだ実感します。病院職員として、職場のすぐ隣でこんなにも温かく子どもを見守っていただける環境は、何にも代えがたい支えです。

この広報誌が、ぽっぽ保育園の持つ、言葉だけでは伝えきれないような家庭的な雰囲気や、子どもたちの健やかな成長を願う真摯な想いを、少しでも多くの皆様にお届けできれば、そして皆様の園選びの一助となれば、編集を担当した保護者の一人として、これほど嬉しいことはありません。

田原春舞子（菊陽病院職員/ぽっぽ保育園保護者）